

2015年 4月 20日

## The 10th Workshop on Reactive Metal Processing 参加報告書

東京大学大学院工学系研究科  
マテリアル工学専攻 修士課程2年  
岡部研究室所属  
八木 良平

### はじめに

2015年3月20日から21日まで米国マサチューセッツ工科大学（MIT）にて開催された The 10th Workshop on Reactive Metal Processing (RMW10)に JFE スチール海外交流支援プログラムから助成を頂き参加した。

### The 10th Workshop on Reactive Metal Processing (RMW10)への参加、ポスター発表

本ワークショップは今回で10回目の開催をむかえたワークショップであり、東京大学の岡部徹教授、MITの Donald R. Sadoway 教授および Antoine Allanore 助教授の企画・主催のもと、米国マサチューセッツ州ケンブリッジにあるマサチューセッツ工科大学にて開催された。本ワークショップではアメリカ、日本、ヨーロッパ、中国、カナダ等、多種多様なバックグラウンドを持つ材料プロセスの専門家や学生、計55人が集まり、各種金属材料に関するプロセスや電池材料の開発などに関する13件の講演、17件のポスター発表が行われた。

著者はポスターセッションにて、3分間のショートプレゼンテーションおよび1時間のポスター発表を行った。

図1にポスター発表に先立って行われたショートプレゼンテーションを行う筆者の写真を、図2にポスター発表を行っている筆者の写真を示す。



図1 RMW10にてショートプレゼンテーション中の筆者(MIT Grier Roomにて)

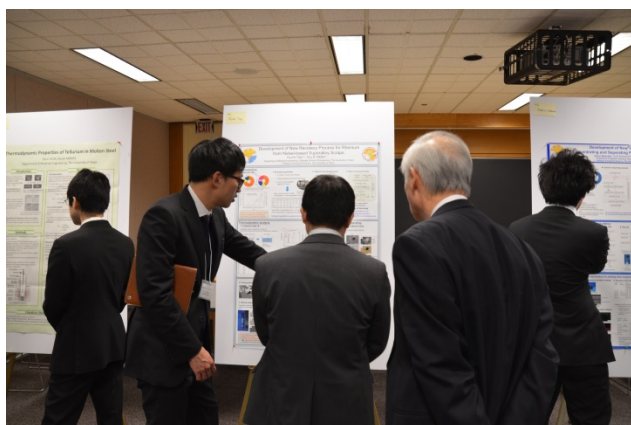


図2 RMW10にてポスター発表中の筆者(MIT Grier Roomにて)

英語での研究発表は筆者にとって初めての経験であり、また、当分野に精通した専門家達の前での発表だったこともあり、ショートプレゼンテーション発表前は少なからず緊張した。しかし、発表時は専門家達が笑顔で熱心に耳を傾けている様子を見て緊張がほぐれ、良い発表を行うことができた。

ポスター発表では個々人に対して比較的長時間説明をすることができるため、ショートプレゼンテーション時よりもリラックスし、かつ、より深い議論を行うことができた。発表では、航空機用合金の研究者や乾式製錬・リサイクルの専門家達から質問を受けた。特に、筆者が研究対象としているニッケル基超合金タービンの製造に関わる専門家と研究討論を行う機会に恵まれ、現状の課題克服や今後の研究展開に向けて大きなヒントを得ることができた。また、セッション中に海外の大学院生と研究議論を通して交流できたことは、国際的な人脈形成という面で、とても有意義であった。

### 終わりに

今回参加した RMW10 は筆者にとって初めての国際的ワークショップであり、英語によるポスター発表もはじめての経験であったが、世界各国から集まった研究者との討議を通じ、専門家から鋭い意見を聞くことができ、今後の研究の展開へ大きなヒントを得ることができた。また、多くの優れた研究者と接することで、より高い水準の研究を目指す意欲を強く持つことができた。

さらに、RMW10 では MIT 等の海外の大学院に通う学生と交流することもでき、国際的な人脈の形成という面でも大変有意義であった。

RMW10 の渡航に関する経費は、東大環境マネジメント工学センターの JFE スチール海外交流支援プログラムの助成を受けた。海外渡航助成という形で、これら数多くの貴重な機会を与えてくださった、JFE スチール海外交流支援プログラム関係者の皆様に心から深く感謝申し上げる。